

## 平成30年度坂東市教育総合会議 議事録

- 1 招集日時 平成30年10月26日(金)  
午前10時00分～午前11時20分
- 2 招集場所 坂東市役所3階 応接室
- 3 出席委員 坂東市長 木村敏文  
教育長 倉持利之  
教育長職務代理者 倉持恒幸  
教育委員 井口理恵  
山口直通  
田中芳文
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局  
教育部長 猪瀬宏彰  
企画部長 和田 聡  
企画課長 菊池和則  
学校教育課長 真中敏明  
指導課長 後藤昌範  
学校教育課課長補佐兼係長 逆井克広
- 6 会議案件
  - (1) 市長挨拶
  - (2) 協議 <坂東市の教育施策の基本方向について>
    - ① 基本的な生活習慣と豊かな人間性の育成
    - ② 学力の習得と活用力の育成
    - ③ 生涯学習と芸術・文化、スポーツ活動の推進
    - ④ 安心して学べる教育環境づくりの推進
- 7 会議概要
  - 開会  
市長から開会の宣言がなされた。

## ○協 議

### ① 基本的な生活習慣と豊かな人間性の育成

(教育長より資料に基づき説明)

#### 【主な質疑・意見等】

(山口委員)

教育長が掲げた8項目は大変すばらしいと思います。特に①命を守るについては乳幼児については大人が守ることでありますが、幼稚園、小学校、中学校と成長するにつれて自ら命を守る力を育成することは重要なことだと思います。

②食習慣についても、私は高等学校しか経験していませんが、朝食を食べてこない生徒が多いです。小学生、中学生の時から朝食を食べてこない習慣ができてしまっていると感じています。

③読書週間についてですが、読解力はやはり小さいころから読書に親しませることが非常に大切だと思います。読解力と言いますと国語、特に文系と思われがちですが、読解力がないと設問を理解できないということで、文系、理系に関係なく必要な力だと思います。

④歯磨き、⑤睡眠時間、⑥坂東市5つの約束について非常に大切なことだと思います。

⑦体力の向上も生涯スポーツへつなげるということで、体育の時間がとても大切だと思います。小学校の遊具施設が、ずっと壊れたままだったのですが、市長と教育長が変わられてからすぐに修繕していただき、とても対応が早くなり喜んでおります。

⑧18歳成人ということで、選挙権など自己責任、自己判断力をつけていかなければいけないと思いますので、小学生のころから対応していくべきだと思います。

(井口委員)

教育長が掲げた8項目の具体的内容は素晴らしいと思います。生涯生きぬいていく人づくりのためには、やはり習慣がとても

大事で、その基盤というのは幼児教育から小学校低学年のうちに身につけて行かないと、大きくなってからでは対応が難しいと思います。

③の読書習慣についてですが、以前から朝読を学校で推奨していたと思いますが、ここ数年、学力向上に比重を置いているようで、ドリルなどが多くなっているようですが、できれば朝読の習慣を続けていただければと思います。

⑤睡眠時間の確保とネット依存解消についてですが、幼稚園から小学校低学年のお子さんを持つ保護者の年代が、ちょうどコンピュータゲームが始まった頃なので、私たち年代と感覚がすでに違っていて、私たちが当たり前だと思うことをどうやって、保護者に啓蒙していくかということが課題だと思います。インターネットを利用させないということではなく、インターネットありきの考えで、どうやって情報モラルを子供たちに教育していくかということが重要だと思います。

⑦の体力向上について、最近、学校の先生方がすごく外に出ていただいて、児童生徒たちと遊んでいる様子を多く見かけます。忙しい中大変だと思いますが、子供たちにとって先生方と一緒に遊ぶことはすごく嬉しいことですので、今後も続けていただければと思います。また、帰宅してから外で遊ぶ子供たちが少ないので、地域力も生かしながら安心して遊べる環境づくりを行っていただければと思います。

就学前教育・家庭教育の充実というところで、訪問型による家庭教育支援をすごく先行して実施していただいて、効果も出ていますので、平成31年も是非継続していただければと思います。就学前教育の核になる指導課スタッフの配置ですが、現在、英語担当の指導主事の方が担当されているということで、負担も大変だと思いますので、できれば専門的な知識を持った方の配置が望ましいと思います。障がいを持ったお子さんも増えてきていますので、是非核となる専門スタッフの配置をお願い

いしたいと思います。

(田中委員)

一番は初めに子供たちありきだという考えが根本だと思えます。子供たちのために我々は何ができるのかということですが、やはり学校、家庭、地域の三位一体で取り組んでいく必要があると思えます。

基本的な生活習慣ですが、子供たちの発達段階に応じて当たり前前のことが当たり前前にできるということが大事だと思います。

生き抜く術の獲得というのはとても重要ですので、やはり経験や体験というものが大事になると思えます。子供たちには、いろいろなことを経験、体験させていければ良いのではと考えています。

(倉持教育長職務代理者)

最初にたくましく生きぬくとありますが、これは教育大綱を決めるときに非常に議論し、たくましく生きるではなく、たくましく生きぬくに決めました。では、たくましく生きぬくためには、我々はどのような対応が大切かということですが、今回教育長からの説明にありました8項目にまとめられており、大変嬉しく思います。

市町村の教育委員会、教育行政というのは特に義務教育を中心に関わっていくことだと思います。この義務教育期間に基本的な生活習慣、基礎力、そして古い言葉ですが躰をつけられるように力を注いでいかなければならないと思えます。

## ②学力の習得と活用力の育成

(教育長より資料に基づき説明)

(指導課長より資料に基づき学力の現状等を説明)

### 【主な質疑・意見等】

(山口委員)

全国学力・学習状況調査を見ると、特に小学校では坂東市の

学力が向上してきており、大変良いことだと思います。

質問紙調査では、小学生の自己肯定感が全国よりも高いということは、魅力ある学校づくりの成果ではないかと思います。

中学校ではいじめが全国的な問題になっていますが、いじめは、どんな理由があってもいけないと8割以上の生徒が意識しているということは、道徳教育の成果だと思います。

秋田県能代市への教育研修視察も今年で4年目ということですが、秋田県は全国的にも学力上位であり、教育視察研修の成果が表れていると思います。

(倉持教育長職務代理者)

指導課長の説明にもありましたが、学級間での学力差があるので、研修を進めてきていきたいということですが、是非お願いしたいと思います。併せて市内の学校間の研修では、教育研究会という組織もありますので、お願いしたいと思います。

(田中委員)

資料にもありますように、先生方の板書計画の共有ということは大変良いことだと思います。やはり授業の質も高まりますし、これからも先生方への意識づけを継続的に行っていたらと思います。

(井口委員)

先ほどもありました、小学生の自己肯定感が全国よりも高いということは、これから生きていくうえでとても大切だと思います。先生方の関わり方がきめ細やかに対応していただいているからだと思います。子供たちを見ていても伝わってきますので、これからも先生方の温かい教育をお願いしたいと思います。

プログラミング教育と言うと、技術的なことばかりに意識が行きがちですが、論理的思考を高めるということがプログラミングだと思いますので、技術的なことは専門の方に任せて、まずは先生方ができることから、無理なくすすめていただければと思います。

### ③生涯学習と芸術・文化、スポーツ活動の推進

(教育長より資料に基づき説明)

#### 【主な質疑・意見等】

(木村市長)

ハードとソフトの両方を考えていかなければいけないと思っています。スポーツ施設、例えば体育館や野球場がいつも利用されており、スポーツ活動のニーズが高いということです。

ソフトでは、説明にもありましたようにベルフォーレやミュージズの活用ですが、やはりみなさんのニーズに対して費用対効果も含めて対応していかなければならないと思いますので、お気づきの点などがありましたら是非ご意見をお願いしたいと思います。

(倉持教育長職務代理者)

やはりハード部分の整備というのは行政が担わなければならないと思います。もう一つのソフト部分ですが行政はもちろんですが、参加する人たちの心構えも大きいと思います。先ほど説明にもありました公民館講座の充実ということですが、最初は行政が発足させ先頭に立って行わなければならないが、軌道に乗ったら行政は一步も二歩も引いて、参加者に任せて、その余力でまた新たなニーズに対応していかなければ、なかなか活性化はされないのではと思います。すべてを行政にて行う、例年と同じ講座を行うのでは、金銭的にも職員の負担の問題などもあると思います。

生涯教育ではなく生涯学習としたのは、自ら学ぶ、自分たちが活動していくことですので、その辺を踏まえた公民館講座活動をお願いできればと思います。

(井口委員)

今まで、いろいろな行事があり過ぎるぐらいあったので、先日、音楽ホールの事業で参加者が少ないことがありましたが、その日は他の行事と重なっていたようです。多くの市民に参加

していただけるようにするには、連携して重ならないような配慮も必要ですし、行事の見直しも必要だと思います。

(山口委員)

3月まで神大実分館にありましたが、公民館講座はやはり盛んです。60代以降の女性の参加者が圧倒的に多く、男性が非常に少ないです。神大実分館では年間の定期講座が15、講座の卒業生がつくる団体を同好会と言いますが、約50団体あります。65団体を年度当初に施設を割り振る作業が、ものすごく大変な状況です。年間利用者数が2万人を超えていまして、分館の大きさの割にはかなり利用されている状況です。

#### ④安心して学べる教育環境づくりの推進

(教育長より資料に基づき説明)

##### 【主な質疑・意見等】

(山口委員)

エアコンの設置が何ととっても今年一番だと思います。個人的な感想ですが、高校の場合、私立校はもちろんですが県立高校もほとんどエアコンが設置されております。それなのになぜ坂東市内の小中学校にはエアコンが設置されないのかと何年も疑問を抱いてきました。市長が変わり、一番先に小中学校にエアコンを設置していただき、子供たちはもちろん、保護者も大変喜んでおります。

(倉持教育長職務代理者)

エアコン設置については、心から感謝しています。

(山口委員)

生子菅小学校のプール改修についても、今年度対応していただき今年から利用できるようになりました。

やはり、子供たちに学力向上ばかりではなく、環境を整えてあげることが大切だと思います。

(倉持教育長職務代理者)

やはり子供たちへの環境整備が大切ですし、それには費用も掛かると思います。そのうえでいろいろ申し上げてしまっていますが、やはり教育は人だということです。子供たちにとって一番接する人とは教師であり、また学校にかかわる職員も人だと思しますので、是非充実していただければと思います。予算もありますのですぐにはいかないと思しますので、長期的に学校施設の充実も引き続きお願いしたいと思えます。

(井口委員)

教育にはこんなに費用が掛かるということ、教育委員をやらせていただいて知ることができました。その中でもエアコンを前倒しで設置していただき感謝しております。

2つ目の特別支援教育というところで、実は保健センターで発達支援の親子教室を10年以上やらせていただいております。坂東市は健康づくり推進課の保健婦さんが中核になって、健診等で発達障害のあるお子さんや、お母さんに対して、臨床心理士を招いて相談を行っています。そういう中で、幼小中もしくは特別支援学校にもっとスムーズに連携をとということで、発達センター「つくし」、発達センター「にじ」ができ、発達障害のある幼児、児童、生徒への支援が広がってきています。特に今年度は「にじ」と岩井第二小学校が連携した事業もありますし、保護者にとっては、どう自立させていくかということが永遠のテーマですので、多くの方たちに理解していただける取り組みを今後も続けていただければと思います。

(木村市長)

学校施設整備の部分につきましては、予算ということになりますが、エアコンにつきましては、国に要望しておりましたがタイミング良く平成29年度の補正ということで補助が決まりましたので、前倒しで設置させていただきました。できれば今



年の夏に間に合えば良かったのですが、市長に就任してからは最短の時間で実施できたと思います。

みなさん今年の広報7月号をご覧いただいたと思いますが、生子菅小学校の女の子二人が満面の笑みで、プールで授業を受けている姿が表紙になっています。生子菅小学校のプール修繕については、以前の話ではかなり高額の修繕料とのことでしたが、実際によく検証してみたら、それほど修繕料がかからなかったということです。国や県もいろいろな建物が同時期に造られているのでどこも修繕の時期だと思います。今後、国は長寿命化計画によって整備していくということですので、坂東市も限られた予算で計画的に施設整備を行っていきたいと考えております。また、さらにお気づきの点がありましたらご意見をお寄せいただければと思います。

ありがとうございました。

#### ○閉 会

市長から閉会の宣言がなされた。